

京都大学教育研究振興財団助成事業 成 果 報 告 書

平成30年11月30日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所 属 部 局 大学院エネルギー科学研究科

職 名 教授

氏 名 河本 晴雄

助 成 の 種 類	平成30年度 ・ 国際会議開催助成			
国 際 会 議 名	第22回分析的及び応用熱分解に関する国際シンポジウム 22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis (Pyro2018)			
開 催 期 間	平成30年6月3日 ～ 平成30年6月8日			
開 催 場 所	京都大学吉田キャンパス (京都大学百周年時計台記念館 百周年記念ホール および 国際科学イノベーション棟)			
参 加 者	総 数 343名	内 訳 国内127名、海外216名(参加国数34箇国)		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(プログラム(抜粋版))			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	18,810,000 円		
	うち当財団からの助成額	1,000,000 円		
	その他の資金の出所	<small>(機関や資金の名称)</small> 中部電気利用財団、分析化学会中部支部、高分子分析研究懇談会、関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団、京都文化交流コンベンションビューロー(京都らしいMICE開催支援助成)、スポンサー(フロンティア・ラボ、アジレント、日本分析工業、ウォーターズ、エーエムアール、花王、STジャパン、バイオクロマト、島津製作所、LECO、日立ハイテックサイエンス、日本電子、GESTEL、Lablicate、KRI、GLサイエンス)		
	経 費 の 内 訳 と 助 成 金 の 使 途 に つ い て			
		費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
		会場使用費	3,169,200	1,000,000
		会場設備費	876,260	
		印刷・配布物費	1,115,818	
		グラデイナー・ソーシャルイベント・コーヒーブレイク経費	8,753,527	
		金閣寺訪問費	788,951	
	アルバイト費	1,235,000		
	登録受付処理費	1,202,980		
	表彰費	205,000		
	旅費補助	80,400		
	事務費	1,382,864		
当財団の助成について	<small>(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)</small> 参加登録料を従来よりも減額していたため、貴財団からの助成金を受けることができ、大変助かりました。感謝申し上げます。唯一希望と致しましては、年2回から年1回の受付に変わったため、会議の直前に助成金の決定となったため、予算計画が立て難い点がございました。			

22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis (Pyro2018)

成果の概要

京都大学大学院エネルギー科学研究科・教授・河本晴雄

平成 30 年 11 月 30 日

22nd International Symposium on Analytical and Applied Pyrolysis (Pyro2018)を、平成 30 年 6 月 3 日～8 日の日程で京都大学時計台記念館および国際科学イノベーション棟にて開催した。本シリーズの会議は、1965 年にフランスで第一回目が開催されて以来、2 年に一度の頻度で主にヨーロッパで開催されてきた。ヨーロッパ以外の国での開催は、1982 年の USA と 1994 年の日本（名古屋）に続き 3 回目となる。したがって、海外特にヨーロッパからの参加者が集められるかどうかを危惧していたが、実際にはヨーロッパからの 99 名を含む 34 か国から総勢 343 名と過去最大の参加者を集めることができ、盛大に催すことができた。これも、京都大学の知名度と国際観光都市としての京都の魅力の賜物と感じている。

シンポジウムではキーノート 8 件を含む、口頭発表 71 件およびポスター発表 229 件の発表がなされ、分析的熱分解手法、天然物の熱分解分析、熱分解の基礎科学、バイオマスおよびプラスチックの熱分解、文化・芸術・地球科学における分析的熱分解手法の応用など幅広い分野の最新の研究成果について活発な討論がなされた。また、若手研究者の奨励として若手研究者賞を 6 名の方に授与した。企業サイドからは 11 件の展示ブースの提供があり、最新の機器についての紹介・展示がなされた。

ソーシャルイベント関係では、前日の 6 月 2 日（日）に、京都大学のレストラン「カンフオーラ」にてウエルカムレセプションが開催された。会議中の昼食は主に和食のお弁当を提供し、好評であった。また、6 月 5 日（火）の夕刻には、京都伏見のお酒 17 銘柄を取り寄せ、海外からの参加者からの差し入れを含めたカクテルパーティを開催し、文化交流の良い場となった。さらに、6 月 7 日（木）のディナーは、金閣寺を訪問した後に、国立京都国際会館にて開催した。ここでは京都文化交流コンベンションビューローの支援を得て、舞妓さんに来ていただき、鏡開きを行うことができた。また、前述のカクテルパーティーの前には、和太鼓の演奏会を開催することもできた。これらのイベントは参加者に京都のすばらしさを体験していただく良い機会となった。

会計的には、事前登録の参加登録料を 45,000 円（一般）と引き下げたことから赤字を心配していたが、貴財団より助成金を受けることができたことに加えて、当日参加者（参加登録料 60,000 円（一般））が予想以上に多かったことから、なんとか収支をあわせることができた。ここに厚く御礼申し上げます。

文責：Pyro2018 実行委員長

河本晴雄